

泉州国際市民マラソン 第11回大会 2004年(平成16年)

SENSHU INTERNATIONAL CITY MARATHON THE 11th CONVENTIONS



国内外の招待選手を含む 2765 人が、堺市浜寺公園をスタートし、りんくう公園駐車場のフィニッシュ会場に向け健脚を競った。男子は招待選手の櫛部静二(愛三工業)が 34km 過ぎに小林正明を振り切りトップでゴール。記録は 2 時間 19 分 50 秒で本大会初優勝だった。女子は、招待選手の杉原愛(大塚製薬)が期待通りの走りを見せ、1 月の大阪国際女子マラソン出場直後の参加であったが、前半から独走、2 時間 45 分 18 秒で 3 年ぶり 2 度目の優勝に輝いた。大阪陸協登録の石戸香、第 1 回大会優勝の黒崎しのぶがそれぞれ 2・3 位と続いた。

スタート時は、気温 9 度、風速 1.6m とコースコンディションは良かったが、レース後半には風速が強くなりランナーを苦しめた。優勝の櫛部静二は「風が強かったが沿道の声援が嬉しかった」と感謝の言葉を忘れなかった。

出場者の最高齢でもある日本マラソン界のパイオ

2月15日 日

天 候: 晴れ
気 温: 10.5℃
参加者数: 2,765人
完走者数: 2,146人
沿道人数: 23万人



ニア的存在で、1953 年ボストンマラソン優勝の山田啓蔵は、毎日早朝から 25km を走るトレーニングを続けて来たといい、目標タイム 4 時間を切る 3 時間 51 分 44 秒でフィニッシュした。

今年も、競技を支える役員・審判員の他、多くのボランティアが協力したが、安全な大会運営のため大阪府警と自衛隊の協力と援助が重要であった。確実な通信体制や規制管理を施し、その計画と指令系統は秒単位のもので想像を絶する緻密なものである。



小旗が振られ選手らスタート



沿道で選手を応援する人ら

榎部選手ら健闘誓う

泉州マラソン「失敗恐れず元気に走る」



力強く選手宣誓する松本選手（中央）＝泉佐野市内で

「第十一回泉州国際市民マラソン（同マラソン実行委員会主催、読売新聞大阪本社、読売テレビなど後援）の開会式（レセプション）が十四日夕、泉佐野市内のホテルであり、一九九六年のシドニー・マラソンで二位に入った榎部静二選手（愛三薬）ら特別招待選手や市民ランナーが互いに健闘を誓い合った。

式には、ほかに国内外の招待選手や、泉州地域九市四町の首長ら約三百人が参加。冒頭、実行委員長の向井通彦・泉南市長が「日々の練習成果を十分に発揮して、素晴らしい思い出にならずに大会にして

「第十一回泉州国際市民マラソン」とあいさつした。この後、榎部選手ら特別招待選手が一瞬に在る選手たちに負けぬよう頑張りたい」「失敗を恐れず元気よく走りまわると、大会への意気込みを語った。

各市町の姉妹・友好都市から出場するランナーや、全国各地の市民マラソンで優勝した招待選手らも紹介。昨年、泉州国際市民マラソン女子一般の部で好成績を上げた岡山県瀬戸町の会社員松本晴美選手（36）が、市民マラソンの頂点といわれるこの大会に参加できることに感謝し、ベストを尽くしますと宣誓した。同マラソンは十五日午前



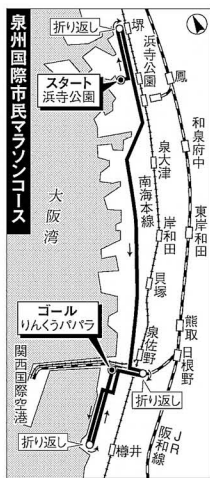
沿道の声援を受けて力走する選手ら

2004年(平成16年)2月15日付朝刊

十一時、堺市浜寺公園をスタート。高石市から泉南市、んうパライメント広場まで南下した後、折り返しを目指す。

早春の湾岸駆ける

泉州国際市民マラソン 15日号砲



高石ともやさんら招待

点で折り返してゴールの泉燃料する燃料電池車を採用。泊通「環境保護の大会」をアピールする。

表裏による、コースは全体的に直線が多く、ランナーにとっては走りやすいコース。また今年大会では、初めて、審判長に水素をソンの優勝した山崎敬蔵が

ゴール付近では、泉州九市四町の物産展もあり、協賛企業各々が和菓子やタオル、ハンカチグッズなどを販売。景品が当たる「優勝タイム当てゲーム」も行われる。

レース中のコースは、先頭ランナーが通過する三十分前、同・岡田北交差点北側40分、13時9分、15時21分

で順次、通行止めなどの交通規制を実施する。主な地点の予想時間は次の通り。

（先頭、最後の尾の順）

▽堺市・ドコモショップ 堺大浜店前（5分）11時15分、11時25分、高石市・高石署前（10分）11時31分、12時9分、泉大津市・旭機工商会前15分、11時47分、12時39分、岸和田市・別所医院前（20分）12時3分、13時7分、泉佐野市・鶴沢賛企業各が和菓子やタオル、ハンカチグッズなどを販売。景品が当たる「優勝タイム当てゲーム」も行われる。

ゴール付近では、泉州九市四町の物産展もあり、協賛企業各々が和菓子やタオル、ハンカチグッズなどを販売。景品が当たる「優勝タイム当てゲーム」も行われる。

2004年(平成16年)2月8日付朝刊



軍手にメッセージを書いて、沿道で応援する貝塚市立西小の児童ら

泉州国際市民マラソン20周年に寄せる言葉

泉南市長 向井 通彦



第20回泉州国際市民マラソン大会が、ランナーの皆様はじめ、たくさんの方々のご参加のもと、今年も盛大に開催されます。い申し上げます。

関西国際空港の開港記念イベントとして始まった本大会も今年で20回目となり、一つの記念すべき節目を迎えました。今や日本全国に知られるだけでなく、海外からの選手も増え、多くの皆様にご参加いただける大会に成長いたしましたこと、とても喜ばしく思います。これもひとえに、大会関係者並びにボランティアの皆様方のご支援・ご協力の賜物と

厚くお礼申し上げます。

さて、スポーツを通して豊かで健康的な生活を送ろうということから、近年、ウォーキングやジョギング、マラソンといったスポーツを自ら積極的に取り入れようとする機運が高まってきております。マラソン会場周辺においても、海岸沿いのすばらしい眺望の中で、早朝や夕方になるとそれらを目的とした方々が非常に多く見受けられます。本大会に参加される選手・関係者の皆様も、スポーツライフを実践され、潤いと活気に満ちた人生を送っていただけることと存じます。今後もこの大会を通じ、広域的な親睦・交流を図られますようご期待申し上げます。

最後になりましたが、本大会開催にあたり、ご尽力いただきました関係各位に感謝申し上げまして、私のごあいさつといたします。

泉州国際市民マラソン 2800人号砲



早朝の潮風を受けながら市民ランナーが泉州路を駆け抜けた。十五日朝開催された第十二回泉州国際市民ランソン（同実行委員会主催）は、読売新聞大阪本社、読売テレビ、朝日新聞など後援。国内外から参加した約一千八百人、大勢をスタート、ゴルフの泉佐野市のりんくうパークバイセント広場を起点した。曇空からは時折、晴れ間がのぞき、沿道では、力まぎランナーらに、大勢の観衆が小旗を振って応援を送った。

堺市の浜寺公園ではスタートラインに並んだ参加者を、大会実行委員長の向井通彦・京南市長がはだしの市民といっしょにマラソン日和。沿道の市民も歓迎していますので、奔走目指して力いっぱい走り出しは「負けなくて」と激励した。

何号とともに参加者は軽快に走り出した。陸上自衛隊富士山駐屯地音楽隊の12人が大会テーマ曲「負けなくて」を演奏、送り出した。

▲ 一斉にスタートするランナー（15日午前11時、堺市の浜寺公園で、本社へりから）

早春の潮風力走後押し



ほぼ中間地点の貝塚市協浜の休憩所。同市立西小の児童約50人が、「最後までガンバレ」「あきらめないでゴールまで」などとメッセージを書いた軍手をして、ランナーに手を差し出して応援した。

武本大地君(12)は「応援ありがとう」とランナーからお礼をいわれ、すくごくうれしかった。

高石さんハイタッチに

た。僕も大きくなったら絶対出場したい」。

シンガー・ソングライターの高石ともやさん(62)は、児童らとタッチを交わしたあと、「じーンとくる。市民マラソンはこうでいいっちゃ。ますますの気が出てきた」と語り、ひと際大きな声援を受け、レースに戻った。

[illegible]

堺の子頑張った！

女子の特別招き遣手で都市出身、森ノ御さん重宝さの双子姉妹「モデル・タレ（ツイン☆ド）」。姉は雅美さんがお母さんの隣に立ち、一人走ったが康美さんはその足を入るを8分ほど、締めると前後5分15秒。Tを久し振りに着てきた。

Tの出迎えた雅美さんと接合してから三十分を過ぎた。重宝さんが馬場なかっけと口づつを覗いた。雅美さんという声援により、走りだした。見慣れた競馬の中で息を吐き、走りながら最高です！と涙を浮かべた。



出迎えた姉・雅美さん(左)と抱き合う森下里美さん。



審判長車に燃料電池車を初導入



杉原愛（大塚製薬）優勝し月桂冠を受ける

2004年(平成16年)
2月16日付朝刊

櫛部が初優勝

陸上・泉州国際市民マラソン16日・大阪府堺市浜寺公園―泉佐野市りんくうタウン42・053―国内外の招待選手を含む2765人（女子69人）が参加して行われ、男子は、特別招待選手の櫛部静二（32）愛三工業が34分過ぎにスタートして小林正明（33）（山陽特殊製鋼）を振り切った。時間9分30秒で初優勝した。女子も、特別招待選手の杉原愛（28）大塚製薬がスタート直後から独走し、2時間45分18秒で3年ぶりの2度目のVを果たした。

女子は杉原独走

完走者は2146人。スタート時、晴れ、気温9度、湿度60%、北西の風1・6メートル。健在ぶりでアピールした杉原は「流れのままだと、練習通り」と笑みを見せた。〇：女子で独走優勝を果たした杉原は「流れのままだと、練習通り」と笑みを見せた。〇：女子で独走優勝を果たした杉原は「流れのままだと、練習通り」と笑みを見せた。

2004年(平成16年)2月16日付朝刊



先頭争いを繰り広げる櫛部、小林、今井(右から、25%付近で)

タイム計測の近代化

マラソンレースにおけるランナーの計測は、これまで手動によるストップウォッチで計測されていたが、大阪マラソンなど何万人ともなると不可能である。30年程前に開発された電波を使う計測が世界の常識となった。

トランスポンダーシステムといわれ5キロごと路面に敷き詰めた受信ラインアンテナをランナーが通過すると、1メートル前から反応し、ナンバーカードに付着しているICタグ(チップ)を感知し記録される。1秒間に数万回以上の信号をキャッチするので、同時に多くのランナーが通過しても必ず全員正確に計測する。

ICタグをランナーの靴紐に取り付けた時代があったが、フイニッシュ地点で他のランナーと同時にゴールしても、タグ(チップ)が付いた足が前に出てゴールした人と後足の人とでは着順に誤差が出ることになり、記録の計測部位はトルソー(胴体)であるところから、ナンバーカードは前(胸)につけるようになった。時代とともに記録計測は機能性、信頼性、作業効率性などが近代化されていったのである。

ゆえに、それぞれの企業は、より軽くて、迅速で、正確な機器の研究開発に余念がない。



優勝
第11回大会

男子
愛三工業

櫛部静二

女子
大塚製薬

杉原愛

